News Bridge

コンピュータ・アソシエイツ（0120-702-600）

米CAスウィンソンCEO兼社長が来日
日本を戦略的に重要な市場と考えセキュリティ・マネジメント分野でパートナーシップを強化

Computer Associates International, Inc. (以下、CA) のCEO兼社長であるジョン・スウィンソン氏が来日し、「NETWORLD+INTEROP TOKYO 2005」の基調講演をはじめとした会見で、同社の新事業体制の内容と、同社のグローバル戦略において日本が最重要市場の一つであること、そして、今後の日本のパートナー企業とのより密接な連携によって、注力分野であるセキュリティ・ビジネスを加速させることの3点を強調した。

まず、スウィンソン氏は新しい事業体制について、次のように語っている。

「新しい事業構造は、エンタープライズ・システムを管理・保護するために必要とされる各種のプラットフォーム、システム、アプリケーション、およびテクノロジ・スタックについて豊富な経験と幅広い製品群をすべて持ち合わせたCAの強みを最大化できる形です。言い換えれば、いかなる顧客ニーズにも柔軟かつ迅速に対応できる体制であり、世界で最も要求レベルが高く、優れた品質を求める日本のお客様とパートナーに、より一歩踏み込んだソリューションを提供できるということでもあります。」この新体制によって、CAは多角度的な成長を目標にしている。スウィンソン氏は、日本の顧客と長期にわたる関係を築く上で不可欠なのは、個々の顧客のニーズに合わせてきめ細かなサポートを提供することであると語っている。

次にスウィンソン氏は、セキュリティ・マネジメント分野が今後の日本で最も成長が見込まれる分野であるとの予測を次のように語っている。

「総務省が本年5月10日に発表した『日本のICTインフラに関する国際比較評価レポート』によると、調査対象の23の国と地域のうち、日本のITインフラストラクチャは総合評価で第1位でした。しかし一方で、安全なサーバの数では日本は14位であり、データのプライバシーと保護が重要視される現在、セキュリティ確保が迫られています。さらに、米国で成立した“Sarbanes-Oxley Act（米国企業改革法）”など企業統治に関する法規制に対する日本企業の関心も高まっています。日本市場において当社が目指しているのは、CAのセキュリティ・マネジメント・ソリューションによって、こういった日本企業のセキュリティ課題の解決を支援することです。」

スウィンソン氏は日本企業とのパートナーシップの重要性を、次のように語っている。

ジョン・スウィンソンCEO兼社長

「セキュリティ・マネジメント・ビジネスの拡大のためには、パートナー企業との連携によって、顧客企業それぞれのニーズや課題に対応することが重要であると考えており、日本におけるソフトの共同開発も含めた提携の拡大も視野に入れています。その施策の一つとして、顧客やパートナーからの要望に対して、技術面およびサービス・レベルの面で高品質なサポートを迅速に提供するために、日本における技術的側面の活動裁量を拡大します。また、製品面においても、日本語版製品を米国内と同時に提供開始できるよう製品リリース方式を改定しました。」

最後にスウィンソン氏は今後の展開として次のように語っている。

「当社が日本のお客様やパートナーの方々に接して感じたこと、つまり慎重に物事を検証・実行し、要求レベルが高く、知識が豊富であるという特徴は、世界的な傾向となりつつあります。このような環境の中で、お客様に競争力を提供する手段として、ITを位置付けることのできる企業が、成功を収めることができます。ビジネスの管理における効率を高め、より多くの収益に結びつける手段としてITを活用するという発想です。これこそがCAの狙いであり、CAの力を存分に発揮できる部分です。我々はITを通じて、日本企業がグローバル市場で成功を収めるための良きパートナーとなれることを強く願っています。」

ミラクル・リナックス／日本ストラタステクノロジー

テレコム市場を中心に“無停止型Linuxサーバ”提供に向け初の戦略提携
Linuxによる信頼性ソリューションを、日本市場を皮切りにアジア市場で拡販

ミラクル・リナックスと日本ストラタステクノロジーは、ミラクル・リナックスのLinuxサーバOS（オペレーティングシステム）「MIRACLE LINUX」と、ストラタスの無停止型（fault-tolerant）サーバ「ftServer」における戦略提携に合意した。今回の本提携により、LinuxサーバOSの「MIRACLE LINUX」にとっては初めて無停止型サーバとのコンビネーションを実現したことになる。一方日本ストラタステクノロジーも、独自ディストリビューションのft Linux搭載シリーズは既に発表しているが、商用Linuxをベースとした OSとの提携は初めて。国内Linuxベンダーとして高い技術力とサポート力をもつミラクル・リナックスとの協業により、市場ニーズの高まるネットワークDBシステム環境への安定性とセキュリティ強化を図っていく。

両社間での製品検証は既に開始されており、今後ミラクル・リナックスの「MIRACLE LINUX V4.0 - Asianux Inside（MIRACLE LINUX V4.0）」を搭載した日本ストラタステクノロジーのftServerシリーズを、「ftServer Mシリーズ」（仮称）として販売していく予定である。

MIRACLE LINUX V4.0は、日本市場向けにミラクル・リナックスが出荷（2005年秋出荷開始予定）するLinux製品のブランド名称である。同製品は、ミラクル・リナックスと中国のレッドフラッグ社および韓国のハーンソフト社と、共同で事業展開する「Asianuxプロジェクト」で開発している最新バージョン「Asianux2.0」を同梱している。また、ftServerは、CPU、メモリ、HDD、PCI、イーサネットなどのハードウェアを2重化し、障害時には片方のコンポーネントを自動で切り離すことによってシステムダウンやデータの損失を回避する無停止型サーバである。デバイスドライバの強化等OSの信頼性向上策などもあり、Windows上で99.999％を超える連続稼動を実証している。

NTTデータ／サン・マイクロシステムズ

個人情報保護法に対応したシンクライアント型ソリューション分野で協業
システム提案を共同で展開

NTTデータとサン・マイクロシステムズは、個人情報保護法に対応したシンクライアント型ソリューションの分野で協業し、NTTデータが展開する「GO-Global」とサンのシンクライアント「Sun Ray Ultra-Thin Client(以下Sun Rayシンクライアント)」を組み合わせたシステム提案を共同で展開していくこに合意した。

2005年4月に個人情報保護法が施行されたことを受け、各企業では既存の端末に対して暗号化やセキュリティ関連のソリューションを導入するなど、積極的に対策を講じているが、端末自体にアプリケーションやソフトウェア、記憶装置を保有しないシンクライアント型ソリューションへのニーズも高まっている。NTTデータではGO-Globalをベースとして既存アプリケーションをサーバ側に集約し、Webブラウザやシンクライアント端末からアプリケーションを利用するサーバベース・コンピューティング環境を提案してきたが、より高性能なSun Rayシンクライアントと組み合わせることにより、既存のシステム環境を活かしつつ、セキュリティの高いシステム環境への移行を実現することが可能となった。

NTTデータがGO-Globalの提供やユーザーへのシステム化提案および構築支援を、サンがSun Rayシンクライアントの提供、Solaris、Trusted Solaris、Identity Manager等、サーバ側のベースとなるOSやミドルウエアの提供とその導入支援を担当する。また、両社が持つソリューションセンターでのユーザー向けのデモンストレーションやセミナー等も実施し、共同で積極的にプロモーション活動を展開していく予定である。

今回の協業を通じて、NTTデータはGO-Globalで動作可能な強力なシンクライアント端末をソリューションに加えることができた。一方サンもNTTデータのソリューションラインナップにSun Rayが加わることで、より多くの提案／受注機会を得られることを期待している。

News Bridge

東京エレクトロン

容量最適化ストレージで安価なデータ保持と効率的なレプリケーションを実現する データドメイン社の「DD400エンタープライズシリーズ」の販売を開始

東京エレクトロンは、代理店契約を締結しているデータドメイン社の新製品「DD400エンタープライズシリーズ」の国内販売を2005年6月6日より開始した。DD400エンタープライズシリーズは、従来のATAアレイやVTL（Virtual Tape Library）システムと異なり、独自の容量最適化技術によってバックアップデータのサイズを平均で20分の1に圧縮し、物理的ストレージ容量を大幅に削減させることが可能な、ディスクベースのバックアップ／リカバリーストレージ用COS（Capacity Optimized Storage：容量最適化ストレージ）システムである。

長時間のデータ保持をテープ媒体並の容量単価で実現し、災害復旧用のレプリケーションにおいてもWAN経由で効率的にリモート複製することが可能となったことにより、テープに代わるバックアップ／リカバリーシステムの実現化に成功した。同製品の主な特長は以下の通り。

●独自の容量最適化（COS: Capacity Optimized Storage）技術によりバックアップデータサイズを平均で20分の1に圧縮。これにより、容量単価をテープ媒体並みに抑えることができる。

●バックアップ利用可能容量：15TB～233TBのスケーラビィリティーを持っている。スタンダード（週次フルバックアップ+日次差分バックアップ）：15TB～83TB、リダンダント（日次フルバックアップ）：55TB～233TB

●スループット：160GB／時～290GB／時

このような圧倒的な容量、スループット、信頼性、費用対効果を実現するDD400エンタープライズシリーズは、エンタープライズ・データセンターから各支店までをカバーするのに最適な製品である。

なお、「DD400エンタープライズシリーズ」は、主要な企業向けバックアップ・ソフトウェアの認定を得ており、既存の企業システム環境を変更することなく容易に導入することが可能である。

オラクル

オラクルがTimes Tenを買収 インメモリ・データベース市場でのシェア拡大を図る

2005年6月9日、オラクルとリアルタイム・データ管理ソフトウェアを提供するTimesTenは、規制当局の許可やその他の通例の条件に従って2005年7月末までに買収の手続きを完了する見通しであると発表した。

TimesTenは、通信、ネットワーク、証券取引やその他業界で導入が増加中の最も性能が重要視されるアプリケーションに連携する、イベント、トランザクション、データの管理をするインフラストラクチャ・ソフトウェアを提供している。現在、TimesTenの製品を導入しているのは、リアルタイム課金、証券取引、コールセンター、航空業務をはじめとした高性能なアプリケーションを必要とする企業である。

今回の買収について、オラクルのデータベース・サーバ・技術のシニア・バイス・プレジデントであるAndrew Mendelsohn氏は、「オラクルは、通信業や金融サービス業などの顧客に、重要な取引データからの瞬時の応答や、取引データへの常時アクセスを提供することができます」と語っている。またTimesTenのCEOであるJim Groff氏は、「オラクルの業界をけん引するデータベースとミドルウェアを私たちの技術で統合させることで、顧客に迅速な対応性と拡張性、堅牢性、そして安全性を備えたソリューションを提供できます」と語っている。そして、IDCの情報管理・データ統合ソフトウェア部門のリサーチディレクターであるCarl Olofson氏は、「復元可能で信頼性を備えた高速なデータストレージと検索用データベースをサポートする技術は、通信や金融サービスの業界で利用するアプリケーションにおいて、最も重要な要件です。しかもこの技術は、物流や在庫管理などで利用される大規模な分散型データ環境やグリッド・ベースでのアプリケーション・サーバ構築という場面においても、重要になってきています。TimesTenは長年、この技術を提供しています。この買収により、両社の機能の利点を顧客に提供できるでしょう」と語っている。

OSDL

韓国ソフトウェア会社のリーダーであるHaansoftがOSDLに参加 Asianuxの韓国メンバーがOSDLのキャリアグレードLinuxをサポート

エンタープライズ・コンピューティングにおいてLinuxの採用加速に取り組むグローバルコンソーシアムであるOSDLは、韓国のソフトウェア会社のリーダーであるHaansoftがOSDLに参加し、CGL(キャリアグレードLinux)ワーキンググループに参加する予定であることを発表した。

Haansoftは、アジア市場におけるLinuxの急速な成長を牽引する韓国のIT企業のリーダーであり、韓国語のオフィスソフトウェア市場では他を圧倒し、ワープロソフトでは市場の70％を占めている。また、中国のRed Flag Software、日本のミラクル・リナックスとともに、アジアにおける共通のエンタープライズLinuxプラットフォームを目指すAsianux LinuxサーバOSの開発にも参加している。

OSDLへの参加について、HaansoftのGeneral ManagerであるJaykay Kim氏は、「アジアのソフトウェア開発における専門知識を提供し、OSDLのキャリアグレードLinuxワーキンググループのメンバーと協業することを楽しみにしています。キャリアグレードLinuxの重要性は高まっており、Asianux 2.0において、CGLの仕様をサポートすることをコミットしています」と語っている。一方OSDLアジア担当ディレクタである平野正信は、「アジア全体で、Linuxの可能性は非常に大きく、Haansoftが韓国Linux市場における専門知識をもたらしてくれるものと期待しています。OSDLは、この成長著しい市場においてLinuxの採用を加速するために韓国の企業、開発者、およびベンダー各社と密に協業するのを楽しみにしています」と語っている。

韓国では、多くの政府機関および企業のITマネージャーがLinuxに対して熱狂的に高い関心を示している。2004年1月に韓国ソフトウェア振興院は、1,000件以上の政府のITプロジェクトをLinuxおよびオープンソースソフトウェアに移行することを発表している。

スターリングコマース／日立ハイテクノロジーズ

日立ハイテクノロジーズがスターリングコマースの「Sterling Integrator」の販売を開始 EAIソリューションとして自社システムにも採用

マルチエンタープライズ・コラボレーション・ソリューションを提供しているスターリングコマースは、日立ハイテクノロジーズが同社の「Sterling Integrator」の販売代理店契約を締結したことを発表した。

Sterling Integratorは、スターリングコマースのマルチ・エンタープライズ・サービス・アーキテクチャ（MESA）に基づくコンポーネント型のソリューションである。Any-to-Anyのインテグレーション・ブローカ・サービス、複数の大容量ファイル対応、意思決定を支援する詳細分析情報やコンテンツベースのルーティング機能を含む強力なビジネスプロセス管理機能を組み合わせることで、インテリジェントかつタイムリーなビジネス情報の活用を可能にしている。

日立ハイテクノロジーズは、自社システム向けにSterling Integratorを導入し、2005年の秋までにグローバルでの連結経営のためのシステム基盤を構築する予定である。日立ハイテクノロジーズは、自社システムにSterling Integratorを採用しているユーザーとしての経験を活かしながら、ハイテク産業、製造業に対するSOA、BPM、EAIおよびB2B連携ソリューションとして、販売活動を展開していく。

日立ハイテクノロジーズの情報システム推進部長の吉田好明氏は、自社システムへの導入について、次のように語っている。

「短期間でSterling Integratorの導入を完了できたことを大変うれしく思います。スターリングコマースは、企業内外のマルチエンタープライズ・コラボレーション分野における多くの導入実績をもち、大変信頼できる企業です。Sterling IntegratorはSOAベースのソリューションなのでスモールスタート（小規模プロジェクトからのスタート）に適しており、かつ将来的な拡張にも柔軟に対応して、長期にわたり活用できるソリューションです。今後、同製品の活用範囲を拡張していく予定です。」